

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成 25 年 12 月 12 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771100845		
法人名	社会福祉法人大恵会		
事業所名	グループホームいなば		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府岸和田市稲葉町1066番地		
自己評価作成日	平成25年10月10日	評価結果市町村受理日	平成26年1月14日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/i
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた環境の中で、穏やかに暮らせるように援助する。季節ごとの行事などを大切にしている。少しでも、多く笑ってもらい、いつまでも歩いて出かけられるように、敷地内の庭にたくさんある季節の草花を菜のしみながら、ゆっくりと歩く時間を提供できるように努めている。

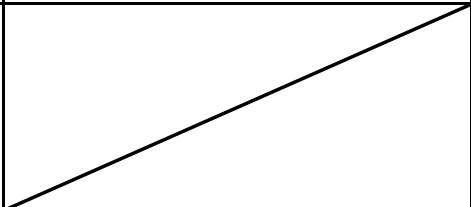
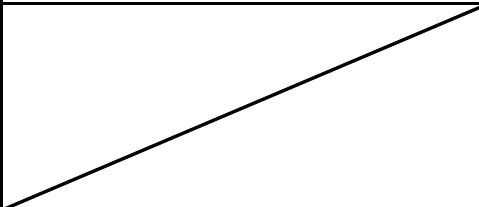
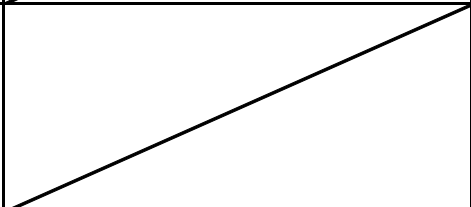
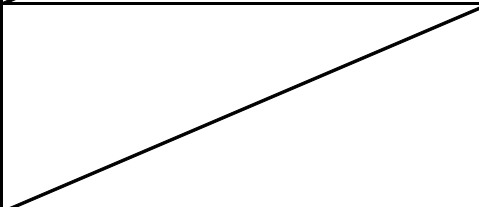
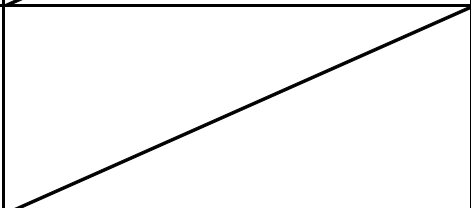
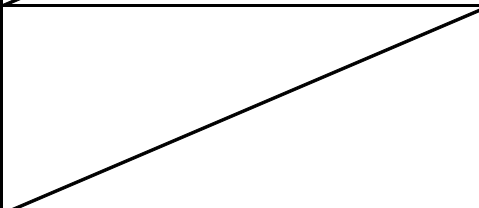
【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成25年11月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「いなば」は南海本線岸和田駅から南海バスで稲葉停留所下車徒歩15分のところに位置し、自然に恵まれた静かな環境の中にあり、特別養護老人ホームを併設した2階建ての事業所である。地域密着型サービスの意義や役割を考えながら、今年度は「気づきと素早い行動で、今日の安心へ」を介護目標に、職員はその実践に向けて取り組んでいる。玄関を入ると広くて明るいリビングがあり、そこにはテーブルと椅子、ソファ等が配置され、ゆっくりと寛ぐことができる。利用者は昼食前、職員と一緒に20分程度、声を出したり、身体を動かしながら歌体操をしている。法人全体で開催する盆踊りには、事業所からも近隣の老人会に声かけをして地域住民を招待する等、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援に努めている。また岸城神社へ菊花の鑑賞、さつまいも掘り、公民館まつり等の行事にも参加している。地域の幼稚園の運動会や音楽会に参加したり、事業所に園児を招く等、人々との関わりを積極的に持ちながら、日常生活が送られるように職員は日々その支援に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に掲示	法人理念・運営方針を事業所玄関に掲示している。今年度は「気づきと素早い行動で、今日の安心へ」を介護目標としている。理念は入職時の研修で周知させる他、月1回実施するグループホーム会議のとき、職員で話し合い、理念を共有して日々の実践につなげていけるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に、幼稚園に慰問に来てもらったり、地域の公民館まつりに出かけたりする	法人として町会に加入している。法人全体の盆踊りには、事業所からも近隣の老人会に声かけをして、20～30人位の地域住民が参加している。利用者は公民館まつり、さつまいも掘り、岸城神社へ菊花の鑑賞等にも出かけている。また幼稚園と年3回の交流を持ち、利用者が幼稚園の運動会や音楽会に参加したり、事業所へ園児を招いたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事内容や利用者の様子について、報告している	会議は2か月毎に開催している。利用者家族、民生委員、老人会会長、老人会副会長、市介護保険担当者が出席し、事業所からは行事の報告や今後の行事予定、入居者の動向等の報告があり、参加者からは利用者の介護度集計表作成の提案等がある。議事録は職員に回覧し、情報の共有を図っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者には、法改正の時に、適応について相談したり、事故報告について相談したりしている	市の担当者には法改正や事故報告等について相談する等、日頃から連携に心掛けている。市担当者からは介護セミナーの案内や介護度集計表作成の提案がある等、積極的な情報の提供と共有がなされている。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>マニュアルを作成し、いつでも閲覧できるように置いている</p>	<p>入職時及び年1回の内部研修を実施している。職員は身体拘束をしないケアについて理解し、マニュアルはいつでも閲覧できるよう書棚に置いてある。玄関入口はドアが開くと同時にチャイムが鳴るようにセンサーを取り付けているが、内部からリモコンを操作しなければ鍵は開錠しない仕組みになっている。リモコンの使用は利用者もできることとしているが、現在リモコンを操作できる利用者はいない。利用者が外出を希望した場合は、職員が付き添い声掛けしながら外出している。</p>	<p>リモコンに頼らず、チャイムだけで対応できるように職員の見守り方法に工夫を施してみる等取組みを期待したい。</p>
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修に参加</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>行っている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>2ヶ月に1回、運営推進会議を行っている</p>	<p>玄関に意見箱を設置しているが、意見等はあまりない。利用者家族の意見や要望は、運営推進会議や家族の来訪時の面談により聴取している。例えば、インフルエンザの予防注射はかかりつけ医で受けているが、事業所の協力医療機関で受けられるようにしてほしい等の要望に対して、要望を受け入れる方向で対応している。</p>	

11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	毎月、グループホーム会議をしている	個人面談は行っていないが、管理者は勤務終了後、数名の職員一緒に意見や提案を聴取する機会を設けている。職員からの意見は行事内容や有給の相談等に関することが多く、備品の修理やエアコンの掃除に関する提案もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修に参加		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修に参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修に参加		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新しい環境や、他の入居者に慣れてもらえるように、職員と一緒に、家事やレクへ参加している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	小さなことも、連絡して、相談するようにしている		

17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>他のサービスを必要としている場合は、情報の提供に努めるようにしている</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>できる家事に参加して、役割を持ってもらえるように努めている</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>定期的に家族会を行い、交流に努めている</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居しても、それまでのかかりつけ医を受診できるようにしている。家族の協力で、墓参りに出かけられる。</p>	<p>かかりつけ医へ通院のとき、馴染みの美容院・理髪店へ出かけるだけでなく、来訪してもらい、法人のショートステイに仲の良い人がいるので会いに行く等、本人がこれまで培ってきた人間関係や、社会との関係を断ち切らなよう職員が同行して支援に努めている。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>毎日の家事の中で、役割を持ってもらえるよう努める</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>必要に応じて、相談に努めている</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人が意思表示が難しい場合は、なるべく、笑顔がみられることを優先するようにしている</p>	<p>利用者の暮らし方の希望や意向は日頃のケアや会話の中で聴き取るように努めている。家族からは来訪時の面談等によって聴き取っている。把握した内容は支援経過表や連絡ノートに記録し、職員で情報の共有を図っている。意思疎通の難しい利用者には表情から汲み取るように努めている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>入居の時に本人や家族などから、情報を集めるようにしている</p>	/	/
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>定期的に、アセスメントを行っている</p>	/	/
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は6ヶ月に1回、作成する。必要に応じて、変更を検討する</p>	<p>利用者の希望や意向は、本人や家族から事前に聴き取り、その人らしく暮らし続けるために必要な支援を盛り込んだ介護計画書を作成している。介護支援専門員や介護職員等が話し合いの場を持ち、介護計画書を作成しているが、カンファレンスへの家族の参加がない。介護計画は6カ月毎に見直しとモニタリングを行い、利用者の状態に変化がある場合には随時見直ししている。</p>	<p>利用者・家族・必要な関係者が一堂に会してカンファレンスを実施することで、様々な意見やアイデアを反映した、より現状に即した介護計画を作成することができるため、できる限りにおいて家族のカンファレンス参加の働きかけを期待したい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子を、記録している</p>	/	/

28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>多機能のサービスを提供できるよう、法人として、様々なサービスの提供に取り組んでいる</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>入居しても、それまでのかかりつけ医を受診できるようにしている</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居しても、それまでのかかりつけ医を受診できるようにしている</p>	<p>利用者や家族が希望するかかりつけ医を継続して受診できるように支援している。通院には基本的に家族が同行しているが、困難な場合や緊急時は職員が同行している。受診結果は支援経過表に記録し、家族に電話等で連絡して双方で情報を共有している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>必要に応じて、法人内の他部署の看護師に相談をしている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中も、定期的に、家族や病院に声を書け、情報収集をしている</p>		

33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時に、重度化したときの方針について、説明をしている	重度化や医療的な処置が必要となった場合は、他の施設や医療機関を紹介し、看取りは行わないことを事業所の方針として定めている。入居時においてその旨家族等にも説明している。重度化や医療的な処置が必要になり、事業所で看ることが困難になった場合は、家族と管理者や職員で話し合い、かかりつけ医の判断を仰ぎ医療機関や他の施設を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回、法人内で、救命手当の研修をしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で、行っている	年2回、法人全体で避難消防訓練を実施している。1回は消防署立会いの下で実施し、もう1回は夜間を想定した自主訓練を行っている。いずれも職員と全利用者が参加している。また緊急連絡網や消防計画は作成している。いつ火災等の災害が発生しても全職員が不測の事態に対応できるよう日頃から意識づけを行っている。災害に備え飲料水や缶詰等の食糧を3日分法人で備蓄している。地域との協力体制は、事業所の地理的な条件もあり構築できていない。	運営推進会議等を活用し、地域との協力体制の構築を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護について、職員は、誓約書を提出している	職員は利用者の一人ひとりの人格を尊重している。誇りやプライバシーに配慮した対応に心掛けている。また年1回、個人情報やプライバシーに関する内部研修を実施している。個人情報のファイル等は鍵の掛かるロッカーに保管している。	

37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	朝食は、パンかおじやを選んでももらえるようにしている		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	日課を持つことで、メリハリのある生活を提供している		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	訪問散髪を利用している		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	できる範囲で、下膳や洗い物を一緒にしてもらっている	献立作成と調理は職員が行い、食材はスーパーマーケット等で購入している。利用者と一緒に法人の畑に野菜を採りに行き食卓を賑わしている。利用者は野菜の皮むきや下膳など自分のできることを手伝っている。また利用者と一緒にホットケーキ等のおやつを作る、バーベキュー、流しソーメン等をして食事を楽しむ、年に数回、レストラン等で外食する等、食事の変化を楽しめるよう工夫している。	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	毎日、食事量を記録している		

42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には、歯磨きを行い、入れ歯は、夜、預かって、洗浄している		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	随時、トイレ誘導をしている	ひとり一人の排泄パターンを支援経過表に記録して情報を共有し、利用者個人に合わせた支援を行うように心がけている。便秘防止のために米にこんにやくを混ぜたものを食している。随時トイレ誘導をすることにより、ほとんどの利用者は排泄の自立ができています。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、食事前に体操をしている		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に3回、時間を決め、入浴をしている	入浴は週3回、午後1時過ぎ～3時半頃行っている。入浴は職員が1対1の対応で行っており、基本は同性介助となっている。菖蒲湯やゆず湯などの折々の季節を感じ、楽しんで入浴できるように支援している。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間でも、必要に応じて、居室で休んでもらっている		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に変更があったときは、必ず、申し送りを行っている		

48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>家事に役割を持つことで、生活に張りが出るように努めている</p>		
49	18 <p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>できるだけ、利用者の希望に添えるよう、努めている</p>	<p>事業所の周りに広い庭があり、天気の良い日は職員と一緒に散歩している。近隣の小学校運動会に参加・ホタル狩り・桜の花見・菊花の鑑賞・喫茶店やカラオケ等普段は行けないような所でも、利用者の希望に添ったところへ外出できるように積極的に支援している。通院途中に一時的に自宅に立ち寄る利用者もいる。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>デメリットの方が大きいと考えるので、行っていない</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>必要に応じて、行っている</p>		
52	19 <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>空調の設定は、1日に、何度も調整を行い、快適な温度を保つようにしている</p>	<p>リビングは日当たりも良く広々として明るい。テレビや応接セットを置き、広い廊下のあちこちにもソファを配置し、一人になれる空間がある。壁には季節感のある手作りの張り絵を掲示している。リビングのコーナーには鉢植えの観葉植物を置き、心地よく過ごせるように工夫している。</p>	

53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内に、座れる場所を、複数つくるようにしている		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや布団など、本人が使っていた物を、なるべく持ってきてもらうよう、おねがいしている	居室にはエアコンと防災カーテンが備え付けてある。ベッド・筆筒・テレビ・愛読書など使い慣れたものを持ち込み、利用者が安心して居心地よく過ごせるように支援している。中には専用の小さい冷蔵庫を置いている人もいる。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1階と2階をつなぐ階段を設置しており、できる間は、なるべく、階段を使ってもらうようにしている		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ 	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない